

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2017年5月12日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: アラバマ大学 現地言語: University of Alabama
留学期間	2016年8月～2016年12月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2016年12月23日
明治大学卒業予定年	2020年3月

留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	円	備考
授業料	15,000ドル	1,500,000円	
宿舍費	3,000ドル	300,000円	宿舍によって異なる
食費	2,500ドル	250,000円	
渡航旅費	2,000ドル	200,000円	
その他	500ドル	50,000円	
合計	23,000ドル	2,300,000円	

滞在形態関連	
1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)	
	大学の宿舎
2)部屋の形態	
	<input checked="" type="checkbox"/> 個室 OR <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 )
3)住居を探した方法:	
	大学側の提供
4)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
	非常に快適であるが、友人がいないと寂しさも感じる。
現地情報	
1)現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?	
	<input checked="" type="checkbox"/> 利用する機会が無かった <input type="checkbox"/> 利用した:
2)学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。	
	現地大学の留学生管理機関に相談した。
3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?	
	特に危険はなし。
4)パソコン, 携帯電話, インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。 (例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので, 寮で使用できない時はカフェに行った。)	
	広い学内全域にwifiが行き届いていた。
5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また, クレジットカードも併用していた。)	
	クレジットカードですべて行った。
6)現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えてください。	
	洋服店が少ないので, 夏冬両方の衣服をあらかじめ持っているとう便利。
7)授業料の支払方法, 支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った, 現地で開設した銀行のチェックで支払った, 渡航前に留学先大学から指示があった, 渡航後のオリエンテーションで支払いに関する案内があった等)	
	渡航後、授業を決めその場で大学のポータルページからクレジットカードで支払い。
卒業後の進路について	
留学を通して生じた, 今後の進路についての考えについて教えてください。	
	日本のアイデンティティ研究をし、貿易などの事業に携わりたい。

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
10 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位(未定) <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。	

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
English for Nonnative Speaker	留学生向けの英語講座
科目設置学部・研究科	English
履修期間	2016 秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	
授業内容	基本的なエッセイの書き方や、引用の仕方などを学ぶ。国際日本学部の必修英語の授業の内容とさほど変わらない。
試験・課題など	毎回の授業で小さい課題が出される。1セメスターで合計5つのエッセイを作成した。
感想を自由記入	周りが全員留学生なので気が楽だった。しかし、国際日本学部ですでに学んだ内容とかぶる点もあった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Small Group Communication	スモールグループコミュニケーション
科目設置学部・研究科	Communication
履修期間	2016 秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義とプレゼン(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	
授業内容	グループディスカッションがもたらす利益や、グループ内での自分の立ち位置の作り方を学ぶ。
試験・課題など	普段課題はないが、最後に 5 人のグループでプレゼンを行う。
感想を自由記入	現地生徒との会話が多くの、ひとつのプロジェクトと一緒に進行するので、コミュニケーション能力が高まる。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Special Topics	特別科目
科目設置学部・研究科	Japanese
履修期間	2016 秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	(未定) 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)

授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Laurie Arizumi
授業内容	日本の歌舞伎や、桜などの文化についての授業を受ける。それに対するクラス内ディスカッションがある。
試験・課題など	半期に3回のクラス内プレゼンがある。
感想を自由記入	日本に関心を持つ学生との交流ができるため、非常に楽しかった。いま、日本に関する何に外国人が興味を持っているかなどがよく理解できた。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例：語学試験の勉強、選考、出願、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等

2015年 1月～3月	
4月～7月	留学の意思決定
8月～9月	TOEFL の勉強
10月～12月	TOEFL 受験
2016年 1月～3月	結果をもとに留学先決定
4月～7月	現地の情報収集、語学勉強
8月～9月	現地到着
10月～12月	期末試験
2017年 1月～3月	帰国
4月～7月	
8月～9月	
10月～12月	

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	幼い頃から、海外で学生として生活してみたいという夢があり、単純な欲望としての留学に行きたいと考えていました。国際教養や英語能力の習得は後から付いてくるものと思っていました。半期という短い時間や日本での学生生活への支障の無さで最終的に国際日本学部に入學し、その瞬間に留学を確定させていました。アメリカの原住民文化に興味があり、比較的田舎であり、勉学に集中が出来そうだという予想から、アラバマ大学を選択しました。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力をあらかじめつけておくという事はよく言われますが、自分は現地のスラングをある程度把握しておくに役に立つと思います。あちらでの生活の充実度を決める鍵は友人関係です。彼らとラフに会話ができると一気に距離が縮まり、その後の生活に大きく役立ちます。それから留学先の情報を多く持つておくと思利かと思います。現地での生活リズムをある程度イメージし、軸を持つておく、臨機応変に対応ができます。
この留学先を選んだ理由	ひとつは単純に、自分が選べる留学先学校のなかで最も必要な TOEFL スコアが高かったことです。それに依じて英語の必修科目がなく、最も現地生徒と同じように勉強に集中できるからです。それから南部の州ということで、ネイティブアメリカンの文化や子孫が強く残り、自分の学びたかった分野に近いと思つたからです。比較的田舎ということもあり、忙しいであろう勉学に集中できる環境というのも理由のひとつです。
大学・学生の雰囲気	大きな街まで遊びに出るには車が必須だったため、高い頻度で出ることではできませんでした。ほとんどの生徒が学内の寮で生活しています。大学の構内は自然豊かで綺麗でした。学生の特徴としては、内向的な生徒が多く、将来は自分たちの故郷で職を見つけないという人が多かった印象です。よってあまり留学生など外の文化に興味のない学生が大半です。日本語を専攻している学生は比較的仲良くしやすいと思つています。
寮の雰囲気	3人でひとつのシャワーとトイレ、リビングを共有し、1人ひとつの個室がある寮でした。すぐ隣に同じ留学生の部屋があり、困つた時は助け合つたり、月に2、3回パーティーをしていました。歩いて1分の場所に寮長が住んでおり、生活中のトラブルや締め出された時にすぐに対応してくれました。寮で生活に関してはかなり満足しています。
交友関係	授業や普通の生活で自分から話しかけない限りはほとんど友達ができませんでした。最も仲良かったのは日本語専攻の生徒と、同じ寮に住むイタリアからの留学生でした。最初は、英語力の低さによる劣等感や、留学生として扱われることに抵抗があり、友達を作ることに苦労しました。現地のダンスサークルのオーディションを受け、参加したのをきっかけに自分の居場所ができ、充実した生活を送れるようになりました。アメリカは基本的に積極的な態度に寛容な国柄なので、自分から遊びに誘つたり、声をかけると簡単に交友関係が作れました。受動的な性格の自分は最初のうちは苦労しました。
困つたこと、大変だったこと	アラバマ州の特色として、人種差別が多少なりとも残っています。様々な人種が混同している大きな大学のため差別を感じることは少なく、特に自分はこれといった経験はしませんでした。関西から留学に来ていた女の子が何度か、人種差別が理由と思われ辛い経験をしたようです。自分たちの力ではどうすることもできない根強い文化なので、苦労することもあると思つていますが、大半の人が差別をするわけではないので、強い気持ちを持つて受け入れると良いと思つています。
学習内容・勉強について	現地の生徒と一緒に授業を受けていたのですが、そこでのクラスメイト達があまりフレンドリーではなく、授業に追いつけなかつたときなどのキャッチアップに苦労しました。自分が留学生であるということクラスメイトは把握していないので、良い意味では対等な立場で授業を受けられるということになりますが、悪く言えば、授業についていくのにかなりの努力が必要です。自由時間のほぼ全てを予習復習に使っていました。課題や小テストが多かつたという点でも、勉学の面ではかなり苦労しました。
課題・試験について	試験、課題の量ともに膨大でした。それに加え、ただ教科書を読むという予習でさえ英語であるため時間がかかり、平日は常に課題に追われるという状態でした。くわえて3回の授業のうち1回、プレゼンをしなければいけない授業もあり、勉強が常に頭の中にある、忙しい状況でした。自分が留学生ということもあり、先生はとても優しく接してくださるので、授業外の時間を使って質問などをすると良いと思つています。

大学外の活動について	日本と同じで、学期初めに新歓期間のようなものがあります。自分はそこで元から決めていたダンスサークルを見つけ、オーディションに合格し活動していました。週2回の練習はとても楽しくリフレッシュできるものでした。さらには一度舞台での発表の場があり、海外でのとてもいい経験になりました。 留学生用のパーティーなどもあり、友達を作る場としては素晴らしかったです。
留学を志す人へ	よくある話で、「ためになる留学にしよう」と思っている人も多いと思いますが、そういうことを考えなくても、留学中は忙しく、ためになると思います。あまり気負わずいつも通りに生活を送っていてもいいと思います。自分は留学中よりも帰国してから人間が変わったことを実感しました。正直留学中は忙しくてあれこれ考える余裕がありませんでした。

## 一週間のスケジュール(例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前中	授業	自由	授業	自由	授業	自由	自由
午後	課題	授業	課題	授業	課題	課題	自由
夕刻	ジム	サークル	ジム	サークル	ジム	課題	自由
夜	課題	授業	課題	授業	授業	パーティ	パーティ